

【学校運営協議会資料】 学校評価アンケート

～保護者・児童・教師の結果から～

【集計期間：令和7年12月4日（木）～12月19日（金）】

保護者回答 82%（117家庭中,96家庭回答）

児童回答 89%（児童142名回答）

教員回答 14名

令和7年度 岳下小学校の教育

- 第7次福島県総合教育計画 (R4~R12)
 - 幸せを紡ぐ東北の教育
 - 二本松市総合計画 第2期二本松市教育振興基本計画 (R3~R12)
- 子どもが真ん中の教育の実現

教育目標

進んで学び 心やさしく たくましく

～ひとりでもできる みんなとならもってできる みんなが輝く～

<学校像>

明るく、楽しく、笑顔があふれる学校

- 学ぶ楽しさや、わかる喜びを実感できる
- 一人一人のよさが生き、大事にされる
- やりたいことが生まれ、ふくらむ
- 互いのよさを認め合い、支え合える

学校大好きが聞こえる

<教職員像>

- 教育愛に満ちた教職員
 - ・ 子どもの可能性を信じ支える
 - ・ 子どもと共に、夢をはぐくむ
 - ・ 子どもの姿に学ぶ
- 向上心を持ち、専門性を磨く教職員
- 人間性豊かな教職員
- 関わり合いを深め、信頼関係を築く教職員

重点目標：心を動かし、瞳を輝かせながら、自ら動き出す子どもをはぐくむ
子どもから始まる子ども主体の教育活動の充実を図る～未来に力強く踏み出す土台作り～

<学びを支える姿> ○自分からあいさつ・返事 ○話を聞く ○あたたかな集団
※ 規範意識を高める

<p>進んで学ぶ子 (学び)</p> <p>課題意識をもち、深く考え、自分の思いや考えを伝え、本気で学ぶ子ども</p> <p>「分からない」「どうしてだろう」「やってみよう」「できた」</p>	<p>思いやりのある、心豊かな子 (心)</p> <p>自他を大切にすることをもち、認め合い支え合う子ども</p> <p>「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」</p>	<p>たくましい心と体 (体)</p> <p>自分のめあてに向かって進んで運動し、体力の向上と健康づくりに取り組む子ども</p> <p>「やってみよう」「失敗しても大丈夫」「最後までがんばってみよう」</p>
---	--	---

<重点実践事項>

- ◎ 確かな学力の定着を図る日々の授業の充実
- 自ら学ぶ「学び」のサイクルづくり
 - ・ 子どもの心が動き出す「課題意識」「追究意欲」を高める
 - ・ 学び合い高め合う授業の構想
 - ・ 振り返りの充実
 - ・ 学びを広げ深める(総合的な学習等)
- 授業との関連を図った家庭学習の充実

<重点実践事項>

- 規範意識を高める日々の指導
- 命や思いやりの心を大切にする子どもを育てる
 - ・ 互いを認め合い支え合うあたたかな集団づくり
 - ・ 道徳科を要とした道徳教育の充実
- 子ども自ら動き出し、つながる多様な実践・体験・交流の場の設定
 - ・ 特別活動(学級、縦割り班、児童会活動)、行事
- 考える力や豊かな心をはぐくむ読書活動の充実

<重点実践事項>

- 体力向上や健康増進への意識を高める
 - ・ 失敗を恐れず挑戦する心
 - ・ 目標や課題に向かい最後まで取り組む心と体
 - ・ 楽しく運動する習慣づくり
- 安全に対する意識や行動力を高める
 - ・ 自分の身は自分で守る(防犯・防災)
- 基本的な生活習慣を身に付ける
 - ・ 早寝 早起き 朝ごはん
 - ・ 情報モラル意識の向上

コミュニティ・スクールの推進「地域とともにある学校」

- つながり支え合う関係づくり
- 学びが深まる学習環境づくり

家庭との連携「小さな成長とともに喜び合える」

- 安全・安心な生活環境づくり
- 子どもの未来につながる地域づくり

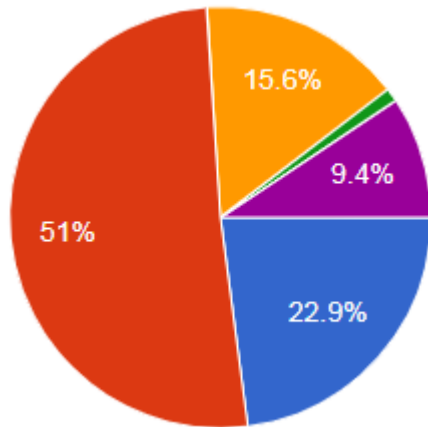
幼・保・小・中を見通した成長を支える連携

- ゆるやかに確実な接続を図る(架け橋期プログラム、三中学区連携等)
- 共通実践 うつくしいことばにふれる日等(家統)

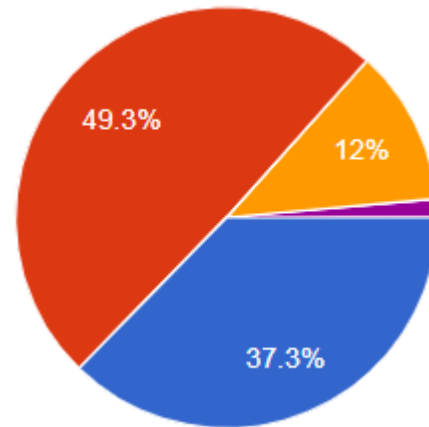
✎「進んで学ぶ子ども」について

①授業のめあてを確かめながら学習に取り組んでいる。

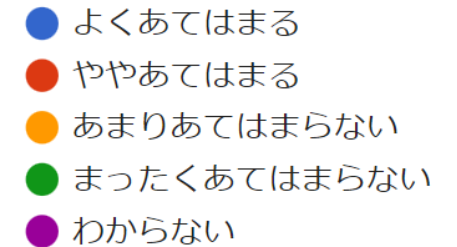
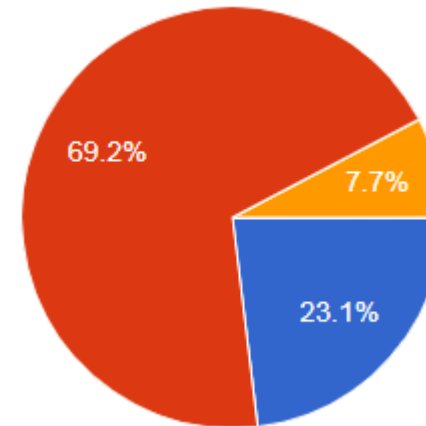
【保護者】



【児童】



【教師】



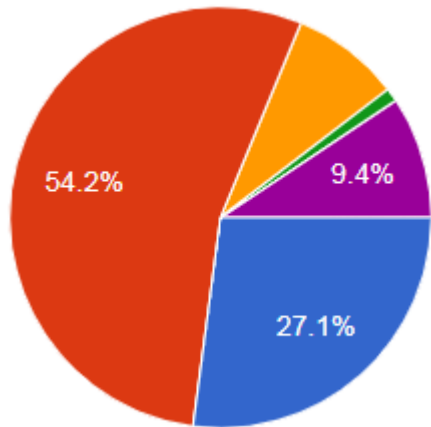
アンケート結果から…

- ✓ 「めあてを設定する授業」の実践を教師が丁寧に取り組むことで、「何を学ぶのか」を意識して学習に臨んでいる児童が多く見られる。
- 児童の課題意識をもとに「めあて」を設定し、追究意欲を高めることができる授業実践に努めていくことにより、児童の主体性を育むことにつなげていく。
- 児童の「課題意識」や「追究意欲」を高めさせることができるよう、今後も教員全員で共有し、授業改善に取り組んでいく。

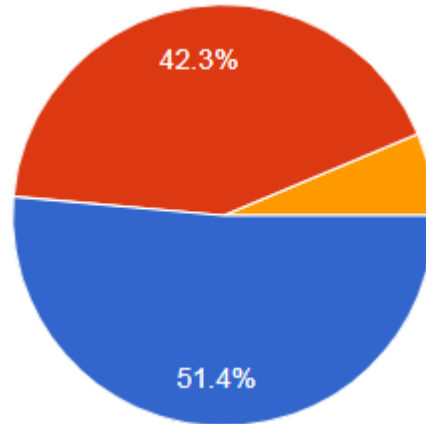
✎「進んで学ぶ子ども」について

② 友達の話をしっかりと聞きながら学習に取り組んでいる。

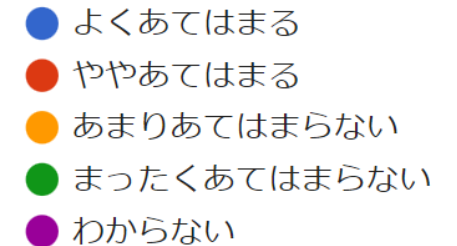
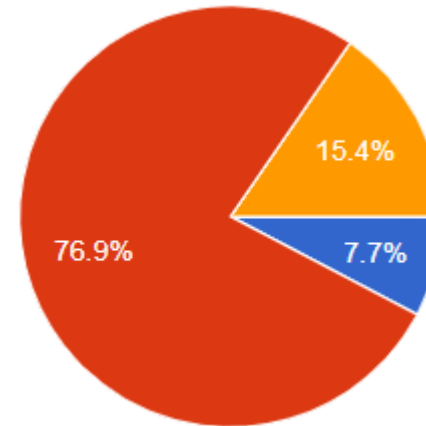
【保護者】



【児童】



【教師】



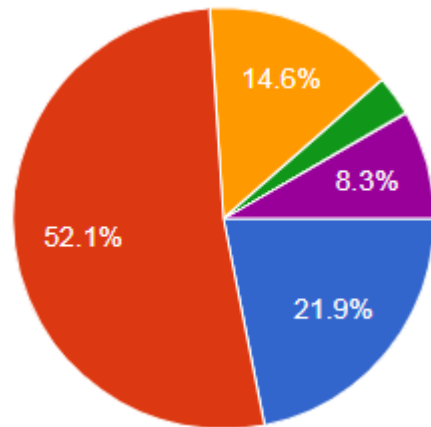
アンケート結果から…

- ✓ 教師、児童、保護者共に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と感じている回答が80%を超え、友達の話を聞きながら協働的な学習を深めていると思われる。
- 授業や学校生活において、児童の発達の段階に応じた「あたたかな聴き方」「やさしい話し方」を指導することにより、今後とも児童間の「聴き合う」「伝え合う」関係を構築し、互いを認め合い支え合う「あたたかな集団」の構築に努めていく。
- 今後とも交流の場を計画的に設け、児童同士がよさを認め合える関係を構築した学級経営に努めていく。

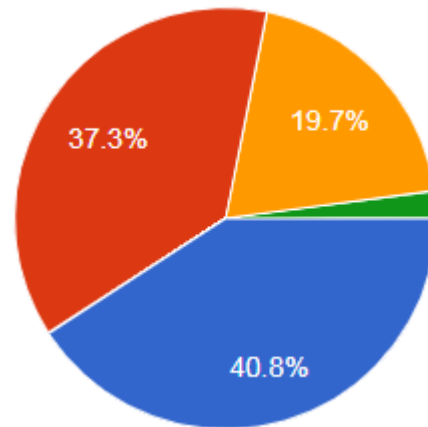
✎「進んで学ぶ子ども」について

③自分の考えを伝えながら学習に取り組んでいる。

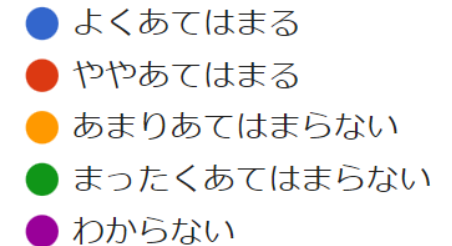
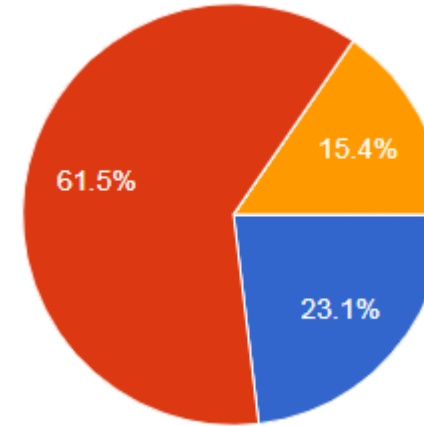
【保護者】



【児童】



【教師】



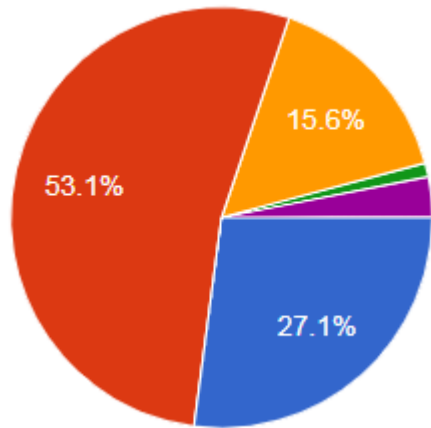
アンケート結果から…

- ✓ 前年度は、「よくあてはまる」と回答した教師はいなかったが、今年度は23%見られた。全体的に、教師が授業の中で自分の思いや考えを伝える場を適宜設定していると同時に、児童が主体的に学習する傾向にあるものと考えられる。
- 今後も授業で「伝える」ことを意識し、「伝える」ことの必要感を生み出すために課題設定の仕方を工夫したり、考えを伝え合う活動を効果的に位置付けたりしながら授業改善に努めていく。
- 日常的な場においても伝え合うことを意識した指導を行ったり、伝え方のスキル等を身に付ける指導を行ったりすることにより、様々な場面で「伝える」児童の姿が見られるようにしていく。

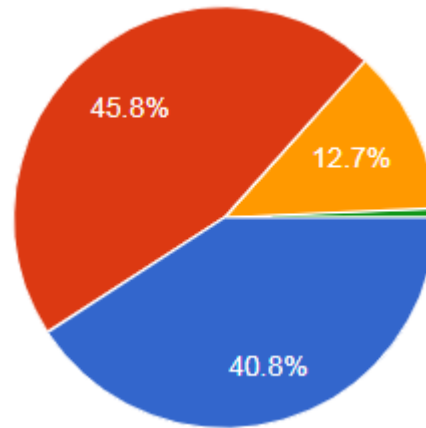
✎「進んで学ぶ子ども」について

④ 学習内容を理解している。

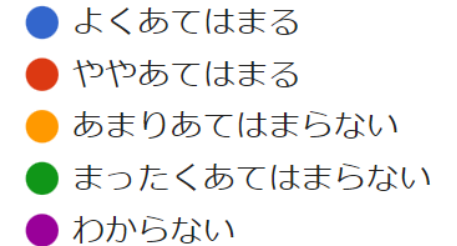
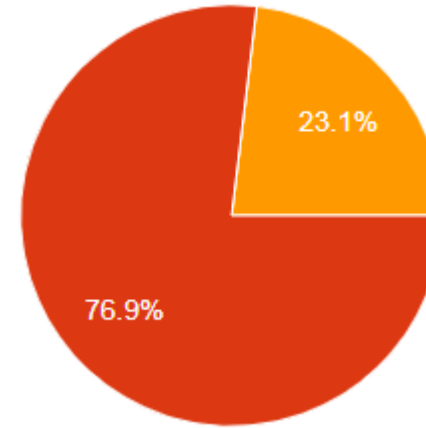
【保護者】



【児童】



【教師】



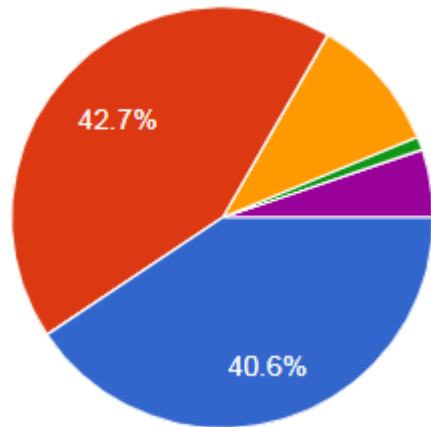
アンケート結果から…

- ✓ 児童や保護者は、学習内容が「よくわかる」と回答している割合が20～40%見られるが、教師は0%である。児童が「わかった」ふりをしていることが考えられ、一人一人の学習の取り組みをしっかりと把握する必要がある。
- 「確かな学力の定着を図る」ために、日々の授業の充実はもとより、理解が十分でない児童への支援・指導に努めていく。また、現職教育部や学力向上対策部等と連携を図りながら、学力の向上に向けた課題を解決していくための策を講じ、効果的な指導を実践していく。

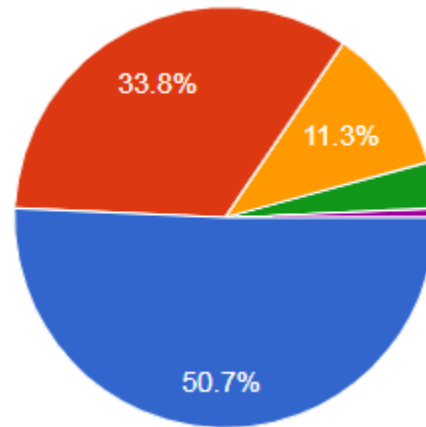
✎「進んで学ぶ子ども」について

⑤意欲的に学習している。（「授業が楽しい」と感じている）

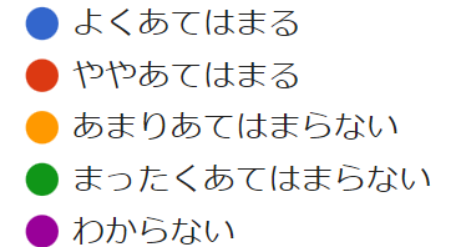
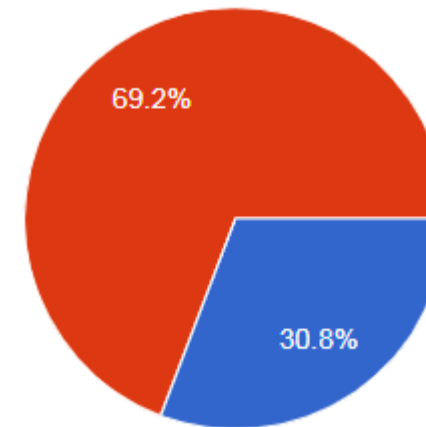
【保護者】



【児童】



【教師】



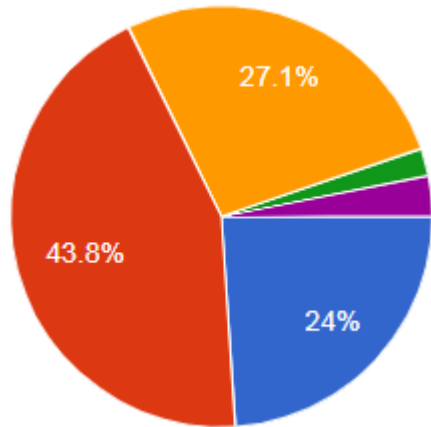
アンケート結果から…

- ✓ 保護者、児童共に80%以上が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答し、教師は100%である。多くの児童は授業が楽しく、意欲的に取り組んでいる。しかし、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答している児童もいる。
- 児童全員が「授業が楽しい」と思えるよう、教職員一丸となって学ぶ楽しさを味わうことができる授業の実践に努め、「進んで学ぶ子ども」の育成に向けて、日々取り組んでいく。

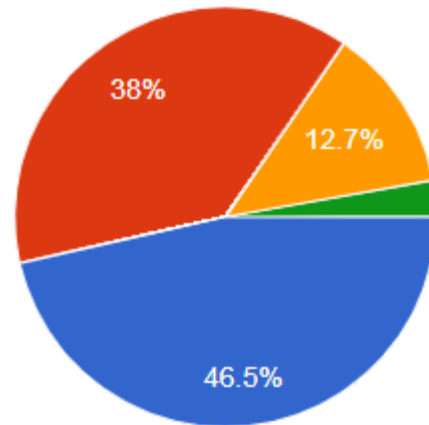
✎「進んで学ぶ子ども」について

⑥家庭学習の習慣が身に付いている。

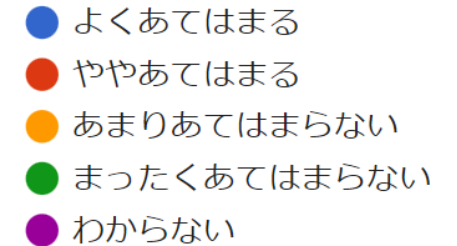
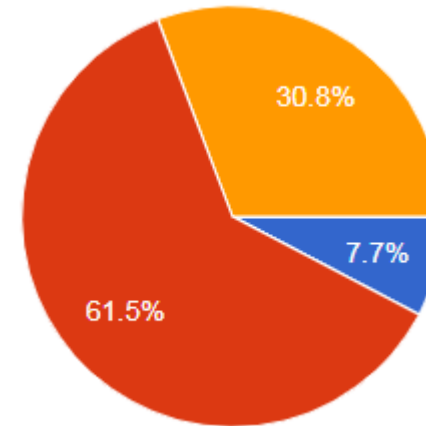
【保護者】



【児童】



【教師】



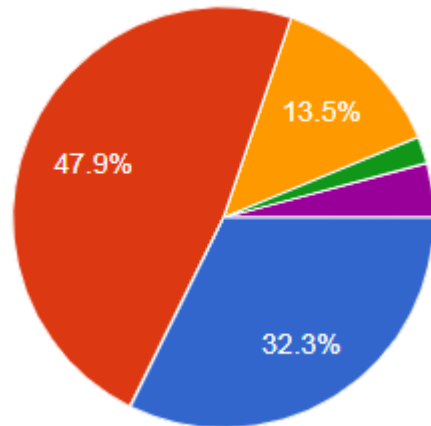
アンケート結果から…

- ✓ 保護者の27.1%、教師の30.8%が「あまりあてはまらない」と回答している。保護者と児童の結果には「まったくあてはまらない」という回答もある。家庭学習の出し方や児童の家庭での過ごし方、家庭の協力の在り方等、家庭学習に対しての課題があるものと思われる。
- 家庭学習の取り組み方への指導を計画的に行い、児童の「自己マネジメント力」の向上を目指していく。家庭学習の取り組みに課題を感じている保護者の思いがあることをふまえ、家庭で取り組む学習内容の質の向上につながるための指導を推進し、学力向上にもつなげていく。

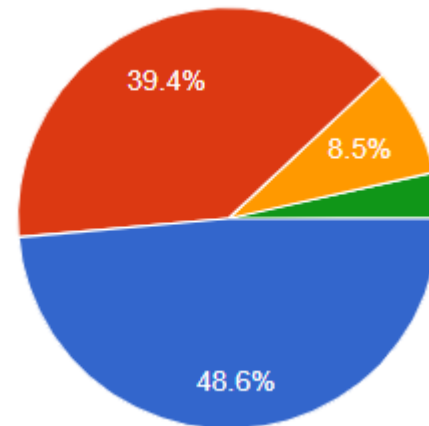
♡「心やさしい子ども」について

⑦進んであいさつしている。

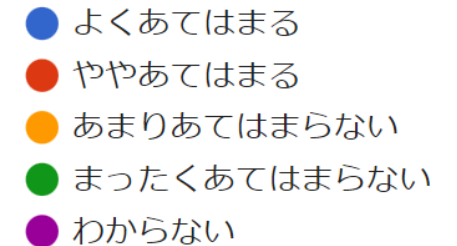
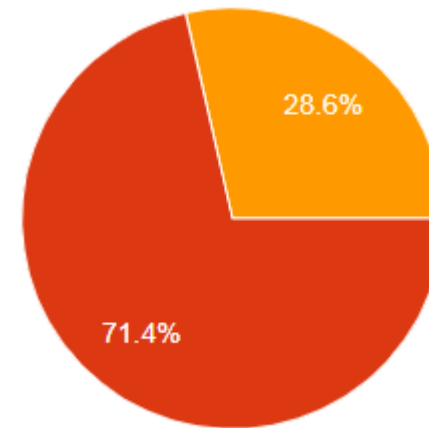
【保護者】



【児童】



【教師】



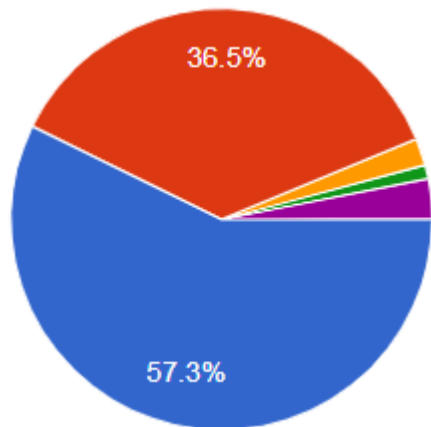
アンケート結果から…

- ✓ 児童の「よくあてはまる」割合が、前年度に比べ25%減少し「まったくあてはまらない」割合が増えている。あいさつがしっかりできていると、児童自身が意識できるようにしていかなければならない。
- 教師側からの働きかけや「あいさつ」の必要性を考えさせる指導を継続するとともに、教師対児童のみならず児童同士でも「あいさつ」を意識した行動が実践できるようにしていく。また、学校だけでなく、家庭や地域との連携強化を図り、あいさつの励行につなげていく。

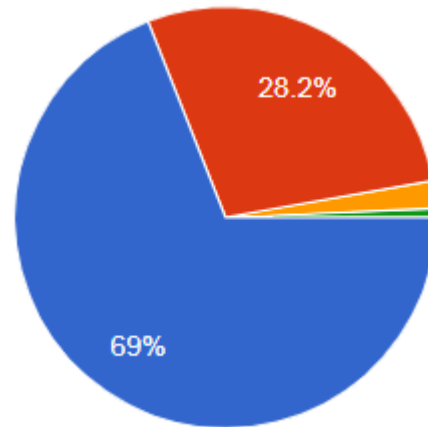
♡「心やさしい子ども」について

⑧ 友だちと仲よく生活している。

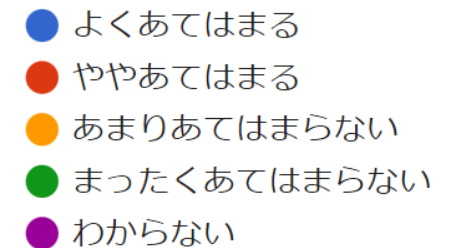
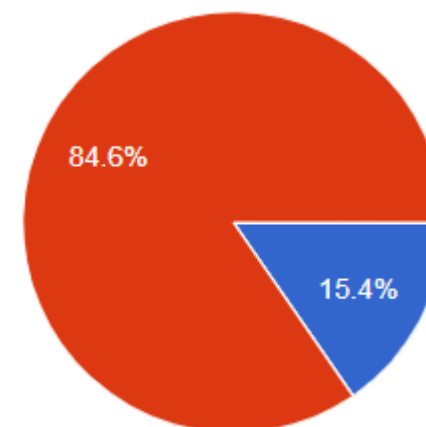
【保護者】



【児童】



【教師】



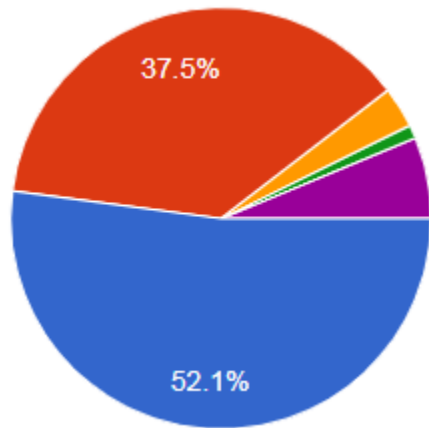
アンケート結果から…

- ✓ 児童、保護者、教師の多くが「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答している。教師は100%である。しかしながら、保護者、児童には「あてはまらない」回答が見られ、児童の人間関係をしっかりと見取り、支えていかなければならない。
- 児童の学校生活における友達との関わり方等、人間関係をじっくりと見とりながら、教師が一人一人の心の変化をつかみ、その変化に対し迅速かつきめ細かに対応していけるようにアンテナを高くしていく。
- 児童一人一人を全教職員で見守り・育てていくことを確認し、連携を図りながら支援体制を整備していく。

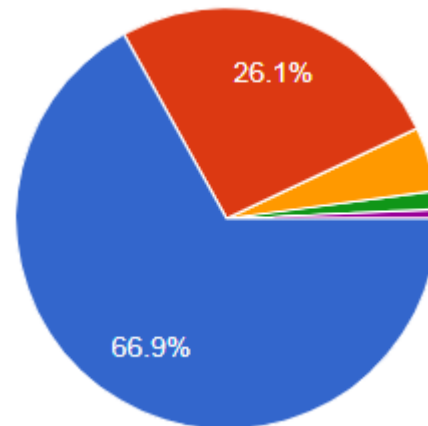
♡「心やさしい子ども」について

⑨ 友だちのよいところを知って（認め合って）いる。

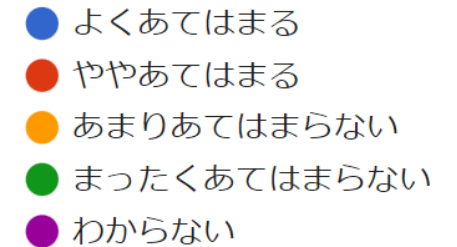
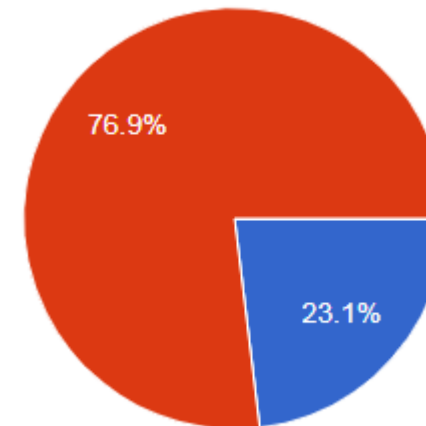
【保護者】



【児童】



【教師】



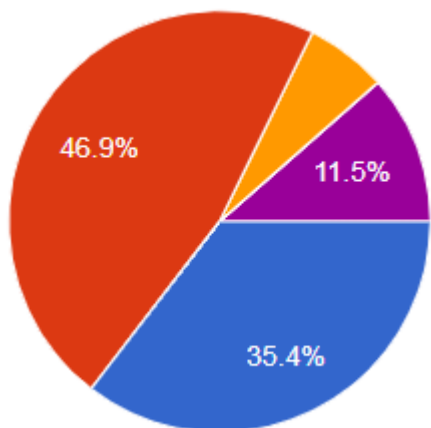
アンケート結果から…

- ✓ 児童、保護者、教師ともに「あてはまる（知っている）」との回答が多い一方で、「あまりあてはまらない（知らない）」と回答する児童がいる。「互いに認め合える関係づくり」を重視した学級づくりをさらに推進させていく必要性がある。
- 学級内において、児童のよさを称賛する場を設けながら、「教師→児童」の称賛から、「児童→児童」の称賛につながるような学級の取り組みを推進させていく。また、友達のよさを認めるだけでなく、自分自身のよさも感得させ、自己肯定感・自己有用感も育てていく指導に努めていく。

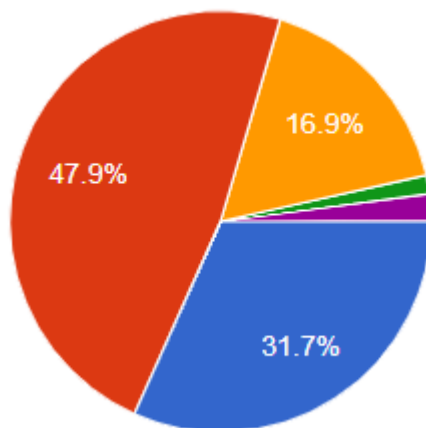
♡「心やさしい子ども」について

⑩ 道徳の授業を通し、よりよく生きようとする道徳性が養われている。

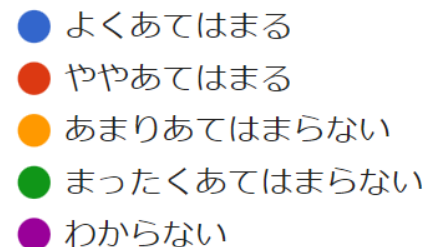
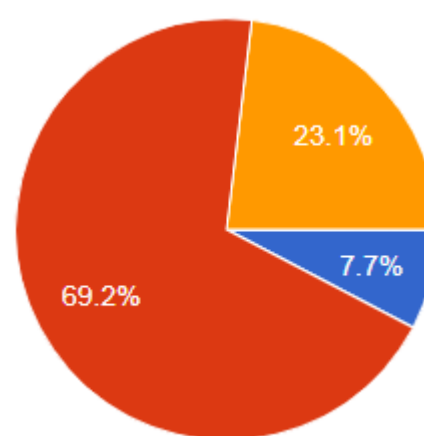
【保護者】



【児童】



【教師】



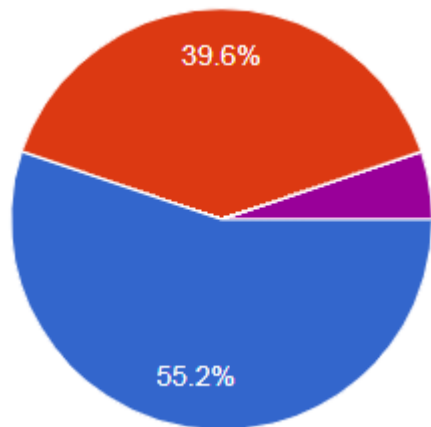
アンケート結果から…

- ✓ 保護者が普段から児童に道徳性が養われているかを見取ることは難しいため、日々実践している道徳の授業を通した児童の姿を教師が見取り、保護者へ伝えていくことが求められる。
- 学校生活における道徳的実践は、教師の見取りから始まることを認識し、具体的な姿を累積し、情報発信に努めていく。今後も「心やさしい子ども」の育成を目指して、児童の道徳性を育むきっかけになる道徳の時間を大切に扱うだけでなく、他の教科や学級活動等学校教育全体を通して関連付けた指導を効果的に行えるよう、道徳教育の充実に努めていく。

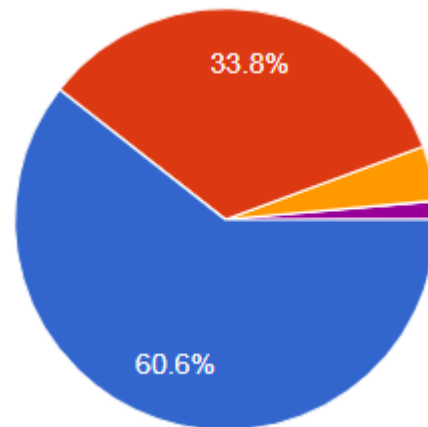
♡「心やさしい子ども」について

⑪ 学校の集団生活を楽しんでいる。

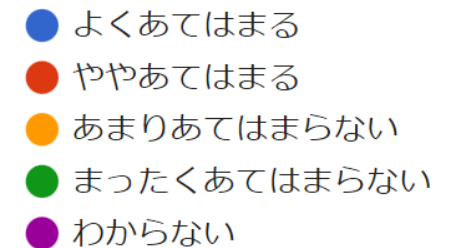
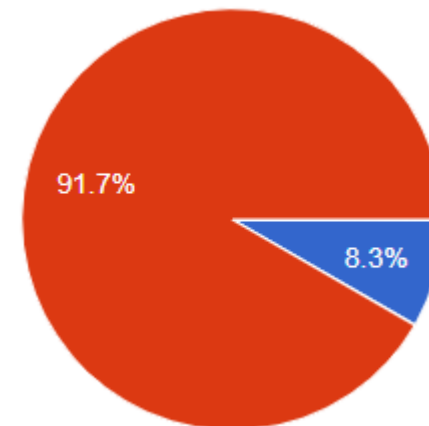
【保護者】



【児童】



【教師】



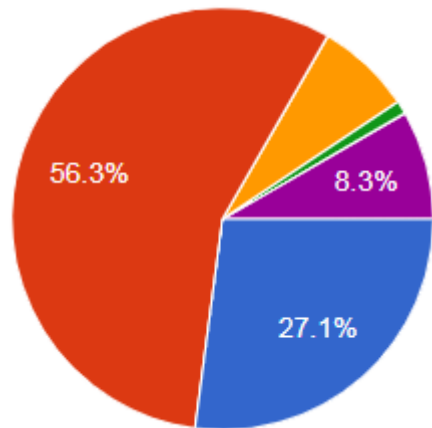
アンケート結果から…

- ✓ 児童の中に「あまりあてはまらない」と、学校生活を楽しくしていない回答が見られた。児童全員が学校生活に満足し、楽しく生活できるようにしていかなければならない。
- 自分の居場所となる学級、友達との絆がつながる学級となるように努める。また、異学年との交流等も充実させながら、学校での集団生活を通して相手意識を育て、相手を思いやり、「心やさしい子ども」の育成に向け、学校・学級経営の充実に努めていく。

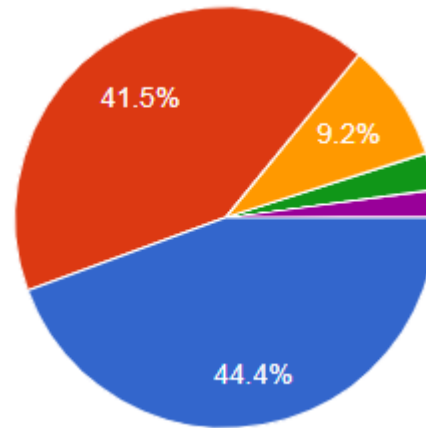
♡「心やさしい子ども」について

⑫ 友達と楽しく生活する方法「コミュニケーションスキル」を身に付けている。

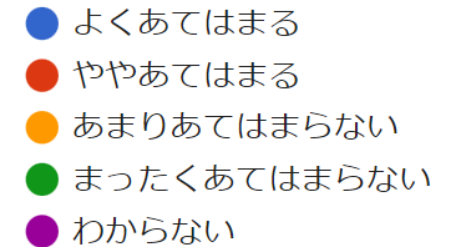
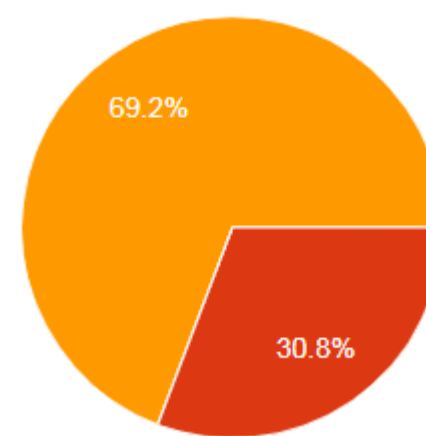
【保護者】



【児童】



【教師】



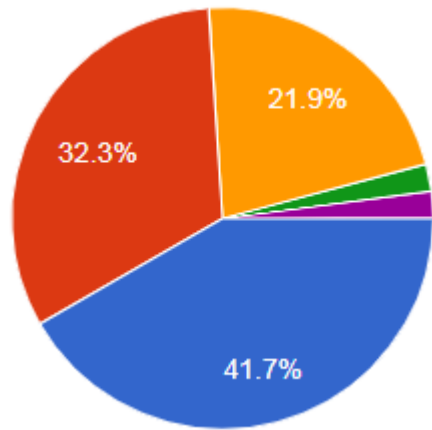
アンケート結果から…

- ✓ 教師の「あまりあてはまらない」が約 70%という高い割合を示しており、児童同士が良好な人間関係を築いていない様子が見えているものと思われ、早期に取り組まなければいけない課題である。各教科の学習や特別活動他、日常生活の中でよりよいコミュニケーションを図ることができるよう手立てを講じていく必要がある。
- 児童によっては、自己中心性が強く、相手とのトラブルが起きやすい場合がある。互いを思いやることによりトラブルを解決したり未然に防止したりできる。そのスキルを身に付けるために、教育活動における計画的な実践を通して継続的な指導をしていく。

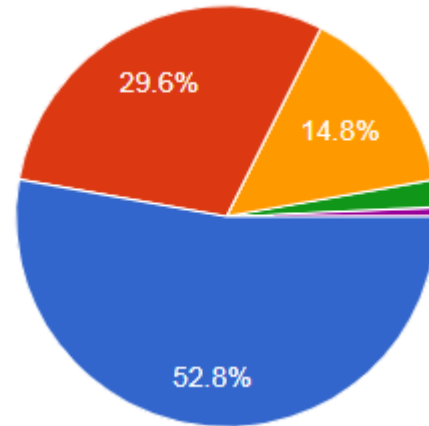
🏃「たくましい子ども」について

⑬進んで運動している。

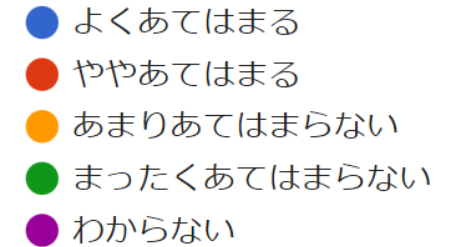
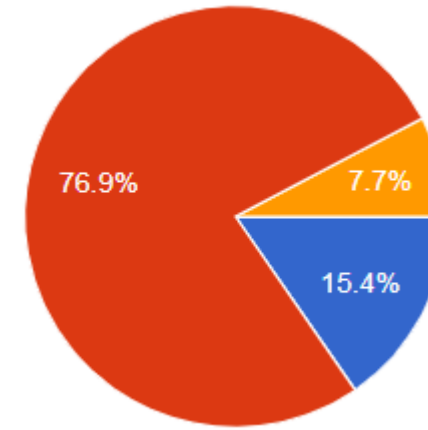
【保護者】



【児童】



【教師】



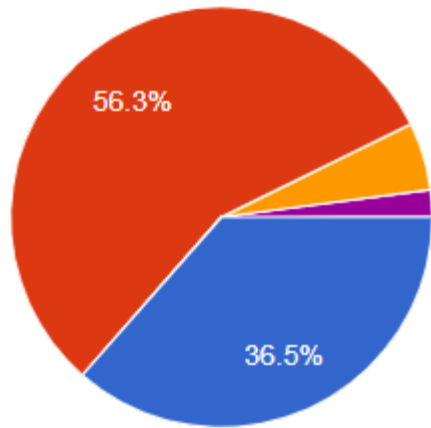
アンケート結果から…

- ✓ 児童や保護者に「（あまり）（まったく）あてはまらない（運動していない）」と回答している割合が目立つ。体育科の授業や運動の習慣化を図る活動等における取り組みや、体力テストから明確になった課題の改善へ向けた取り組みを推進していく。
- 日常的に外遊びを奨励するとともに、体力の向上につながる学校全体の取り組みを強化していく。
- 家庭と連携した生活習慣の改善を図る必要があることを認識し、健康教育の充実にも努めていかなければならない。

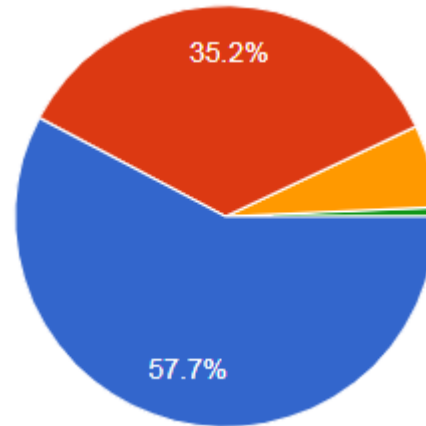
👤「たくましい子ども」について

⑭安全に気を付けて生活している。

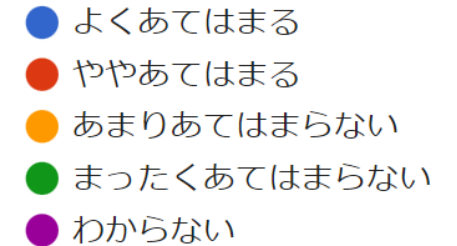
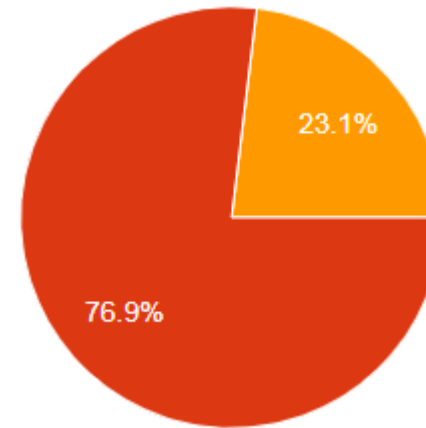
【保護者】



【児童】



【教師】



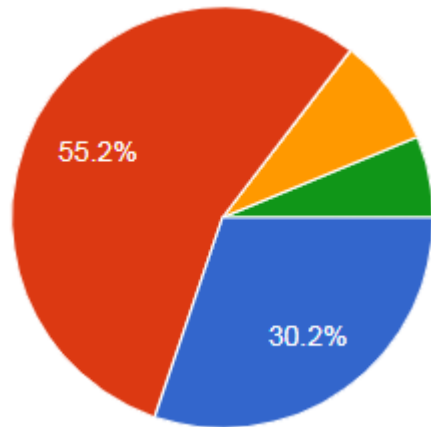
アンケート結果から…

- ✓ 保護者・児童ともに「安全面への意識を身に付けている」と多くの割合で回答を示した。しかし、教師は「あまりあてはまらない」と回答する割合が多く、課題ととらえていることから安全指導が徹底されるよう努めていかなければならない。
- 登下校時は、見守り隊の方々のご協力により安全が確保されている。今後も登下校のみならず学校生活全体を見通した安全教育を推進していかねばならない。

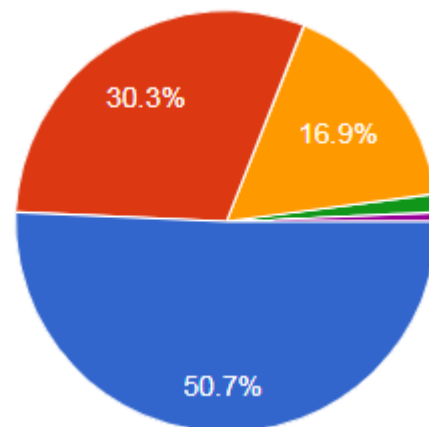
👤「たくましい子ども」について

⑮「早寝・早起き・朝ごはん」を実践している。

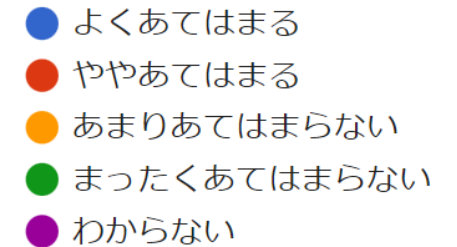
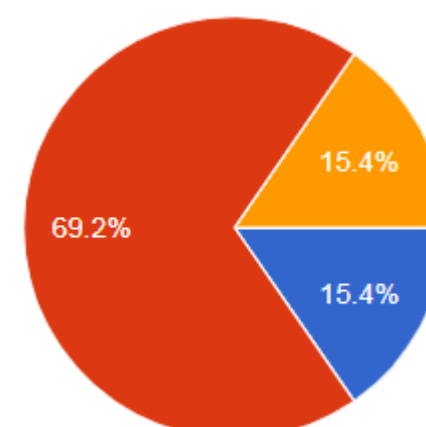
【保護者】



【児童】



【教師】



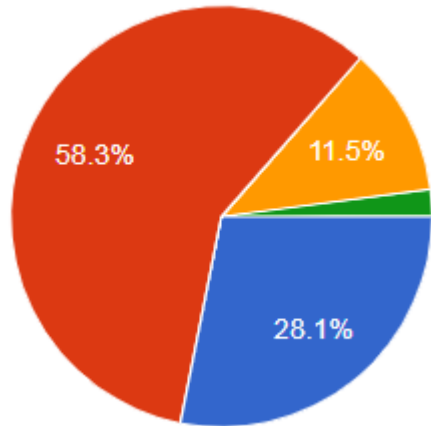
アンケート結果から…

- ✓ 保護者、児童、教師共に「あまり（まったく）あてはまらない」との回答がある。朝食調べでは、朝食の摂取についての実践が100%に届かなかつたり、「夜更かし」や「寝坊」、「食事抜き」の児童も見られる等、家庭との連携を強化させた改善が求められる。
- 家庭においての実践につながるよう、家庭と連携した取り組み方を工夫していく必要性はあるが、児童の意識を啓発し、自らの生活改善の方法を考え行動する「自己マネジメント力」を育み、実践へつなげていけるように指導を継続していく。

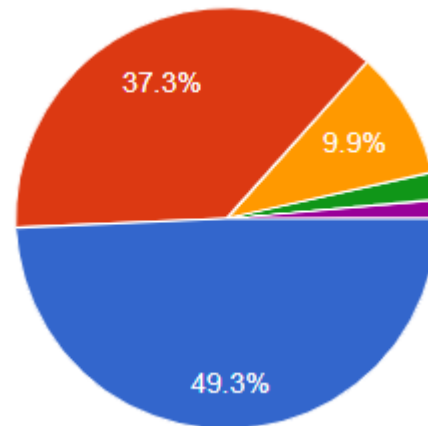
👤「たくましい子ども」について

⑩身の回りの保健衛生習慣や感染症予防策を身に付けている。

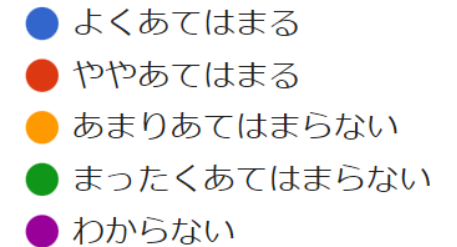
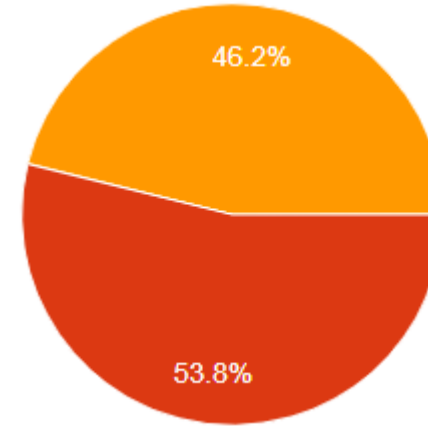
【保護者】



【児童】



【教師】



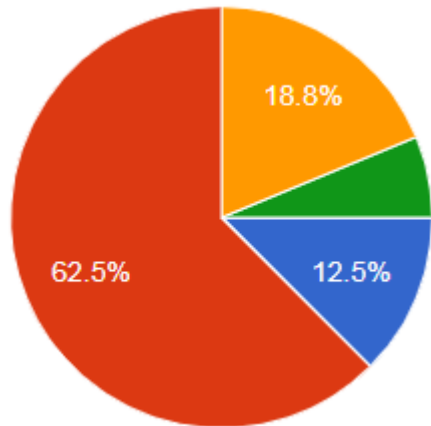
アンケート結果から…

- ✓ インフルエンザの流行による学級閉鎖があったり、その他の感染症への罹患も見られたりした。今後も感染予防への対策にしっかり努めていかなければならない。
- 手洗い・消毒の基本的な取り組みは指導・実践されているものの、ハンカチ・ティッシュの携帯が不十分な児童の姿が見られるため、身に付けるべき習慣として継続指導に取り組んでいく。
- 保健体育の指導を確実に行う。

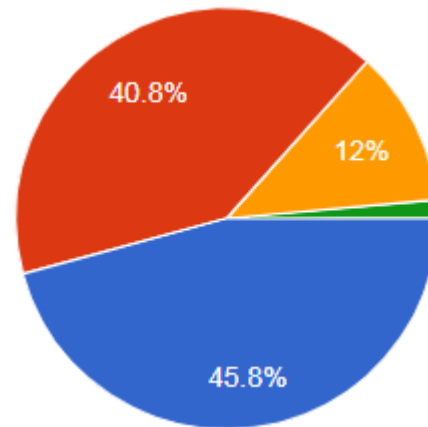
👤「たくましい子ども」について

⑰自分の体のことに関心をもち、意識して生活している。

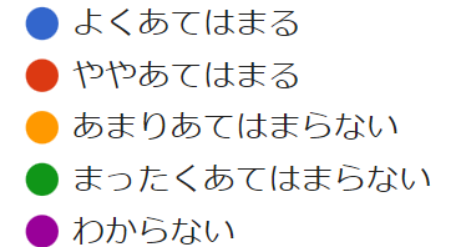
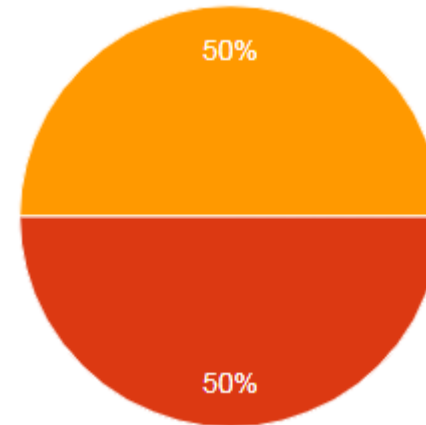
【保護者】



【児童】



【教師】



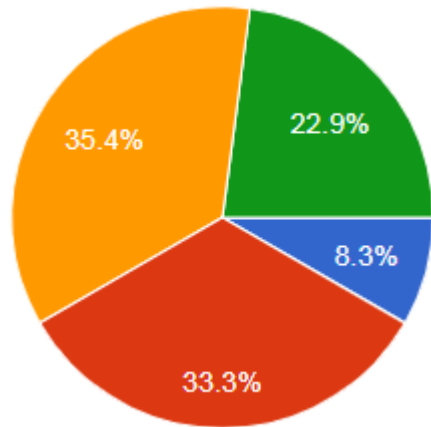
アンケート結果から…

- ✓ 保護者、児童、特に教師に「あまりあてはまらない」と回答する割合が多いため、健康診断等との関連を意識しながら、自分自身の体に関心をもたせる働きかけを計画的に推進させていく。
- 学校から「保健だより」による情報提供を定期的に行ってはいるものの、う歯の治療勧告や肥満傾向児童に対する栄養指導等、保護者や児童に対する実際の指導・働きかけで初めて体のことに気付くことが多いため、各学級でも指導・働きかけを適宜行い、健康増進への意識を高めさせていく必要がある。

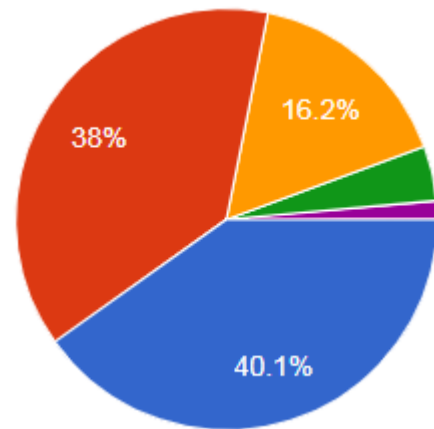
👤「たくましい子ども」について

⑱メディアコントロールを管理できている。

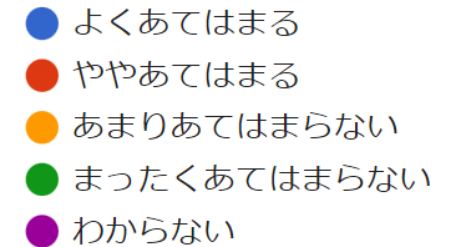
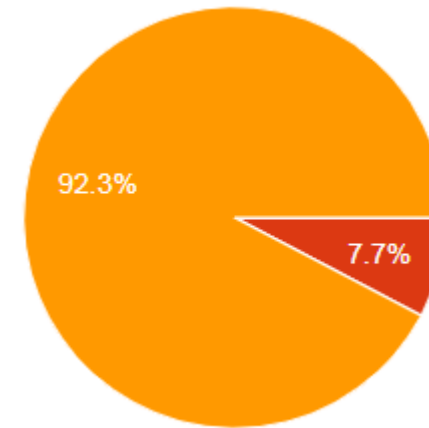
【保護者】



【児童】



【教師】



アンケート結果から…

- ✓ 保護者、児童、教師共に全設問中、最も「（あまり）（まったく）あてはまらない」と回答する割合が多く見られた。テレビ、P C、携帯・スマートフォン、ゲーム等ICT機器が身近にあふれており、そのような環境で育つ児童自らが適切なメディアコントロールの力を身に付けなければならない。
- 学校では、ICT機器の積極的な活用を推進している。その上で、情報モラル教育の指導を充実させ、児童の「自己マネジメント力」の育成に努めなければならない。更には、家庭との連携を図りながらメディアコントロールに向けた取り組みを推進していく。